

(福) ケアハウス信愛館

◆信愛館では、毎年裏山から聞こえてくる鶯の鳴き声で、春の訪れを感じます。満開の桜は散りましたが、今まさに春まつ盛りです。

◆二月二十八日(木) 社会福祉法人近江兄弟社地塩会の評議員会が開催され、先の理事会で話し合われた内容が報告され承認されました。その後、災害時の避難対応について活発な意見が交わされました。

◆三月二日(土) 多文化まるごと講座「外国人が見た日本の城郭」と題してセルボンジャさん(東チベット出身)の講演がひまわり館でありました。

参加された入居者のお一人、安村久美子さんから感想をお寄せいただきましたのでここに掲載いたします。

東チベット出身の留学生が「日本の城郭」について話されるという内容に惹かれ三月二日ひまわり館での国際協会主催の行事に六

名が参加。研修室一杯の人となり専門的な質問をされる方も居られました。

滋賀県立大でチベットの石造りの建物と日本の城郭との比較研究をされているセルボンジャさんは白哲はくせきの物静かで日本語も流暢な青年でした。

近世になってからの日本の城の規模、役割など発掘調査、文書、図などで紹介がありました。その中で驚いたのは疎開で育った甲賀地方に甲賀武士団があり伊賀・甲賀地域の中世城郭の話のあったことでした。規模は小さいものの望月城・竜法師城など村落を支配していたこと、掟書や土師器皿などの出土もあつたことなど興味深く、これが忍者集団につながっていったのではなどと勝手な想像を膨げました。

セルボンジャさんの故郷の映像では石造りの家や「カル」と呼ばれる塔の紹介がありました。

一つの村で六百五十二箇所も分布しているとのこと、もの見・防戦の為の塔のようで大國との間で生き残りをかけたチベットの歴

史の重さを感じさせられました。

近江八幡市がこうした交流活動を進めておられることを知るといい機会となりました。時間があれば、もっとチベットの話が聞きたかったと後で語り合いました。

◆三月二十日(水)「お寿司を食べる会」を行いました。にぎり寿司もあり特にまぐろは大人気でした。

